

青海大橋（上り線） 個別補修計画



令和4年度版

架橋箇所



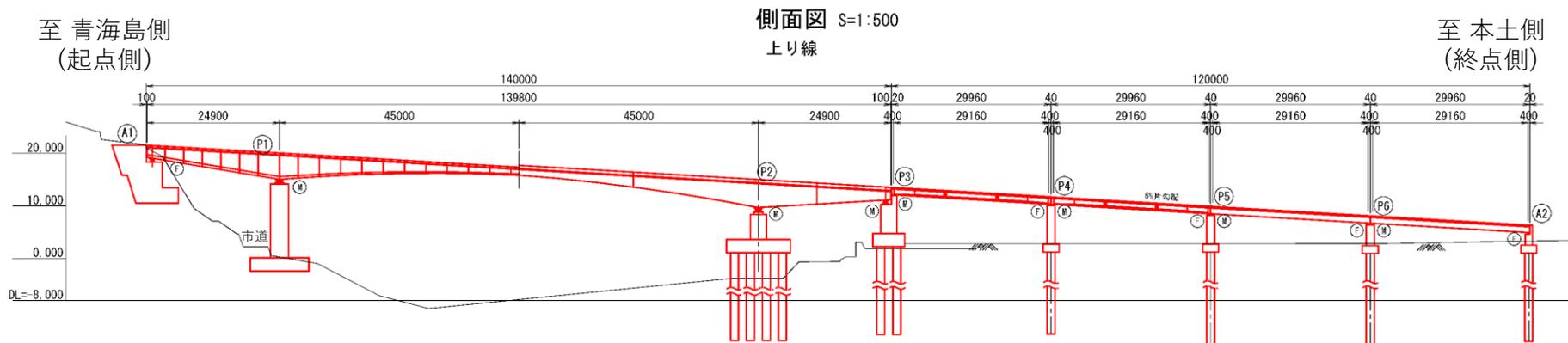
長門市仙崎

(緯度34. 39865, 経度131. 19882)

「この地図は、国土地理院の地理院地図（電子国土Web）の一部を掲載したものである」

■ 橋梁諸元

| | | | |
|-----------|-------------|---------|--|
| 管 理 事 務 所 | 長門土木建築事務所 | 橋 種 | コンクリート橋 |
| 路 線 名 | 一般県道青海島線 | 径 間 | 7径間 |
| 橋 長 | 260.0m | 上 部 工 式 | 3径間連続PC箱桁（第1-3径間） 4径間単純PCT桁（第4-7径間） |
| 幅 員 | 4.6m（全幅員） | 下 部 工 式 | 重力式橋台（A1） 張出式橋脚（P1-P6） 逆T式橋台（A2） |
| 架 橋 年 | 1991年（平成3年） | 基 礎 工 式 | 直接基礎（A1, P1） 杭基礎（P2-P6, A2） |
| 交 差 物 件 | 航路、市道 | | |



■計画期間

- ・ 100年

■計画の見直し

- ・ 10年以内

■維持管理方針

- ・ 「予防保全型」維持管理

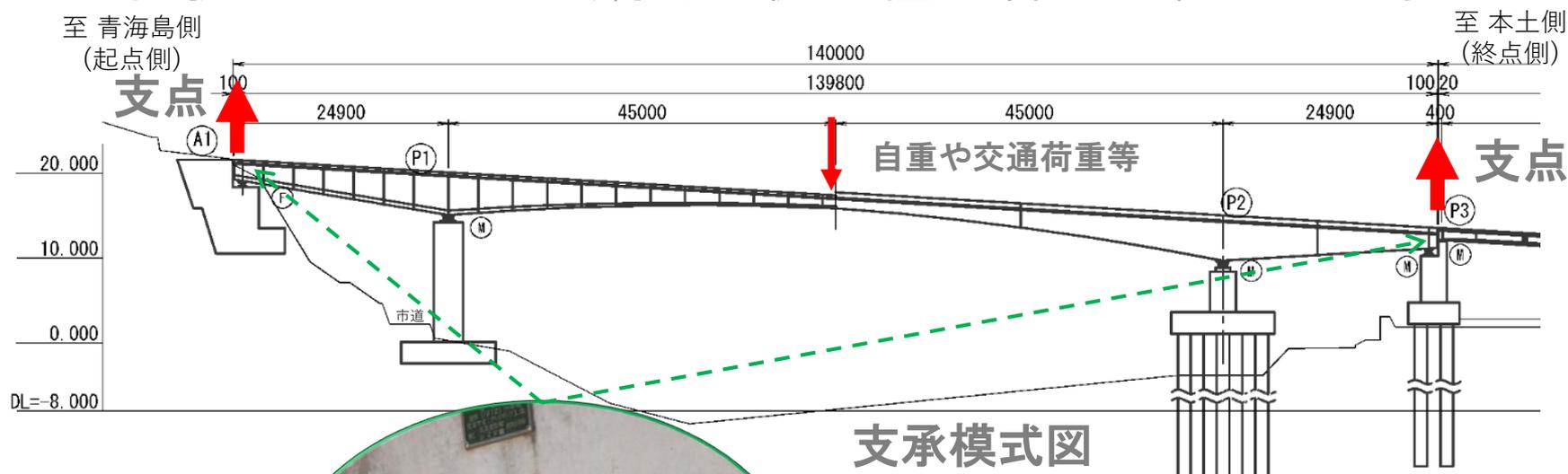
■部材毎の維持管理方針

| | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| P C 上 部 工 | 予 防 保 全 | 支 承 | 予 防 保 全 |
| 下 部 工 | 予 防 保 全 | 落 橋 防 止 | 予 防 保 全 |
| 基礎工（Con） | 事 後 保 全 | 伸 縮 装 置 | 予 防 保 全 |
| 基礎工（鋼） | 予 防 保 全 | 排 水 装 置 | 事 後 保 全 |
| 高 欄 | 事 後 保 全 | 道 路 照 明 | 事 後 保 全 |
| 舗 装 | 事 後 保 全 | | |

■維持管理上の留意事項

・端支点上の負反力

- 支点到常に上向きのかかる構造であり、抵抗するピンやPC鋼材の健全性の管理が極めて重要



支承
拡大写真

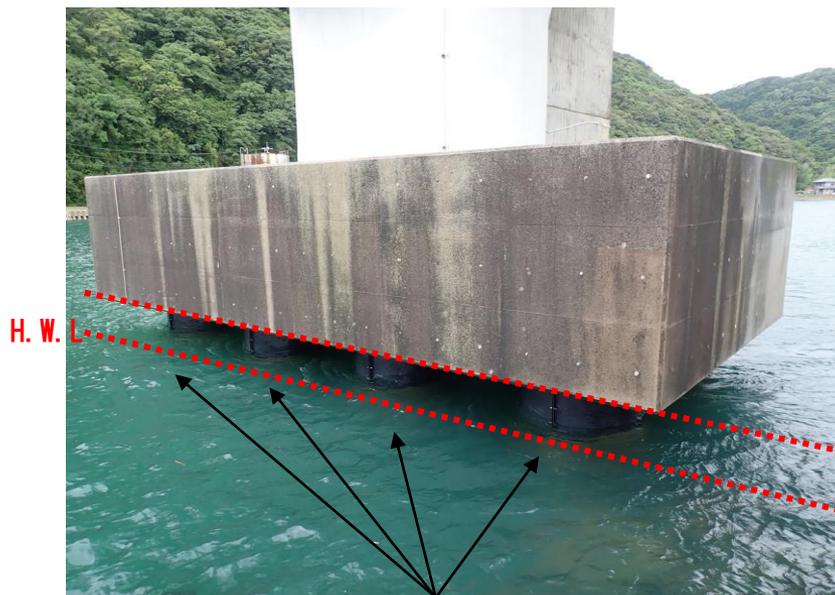


➤ 支承のピンに常に大きな負反力が加わる

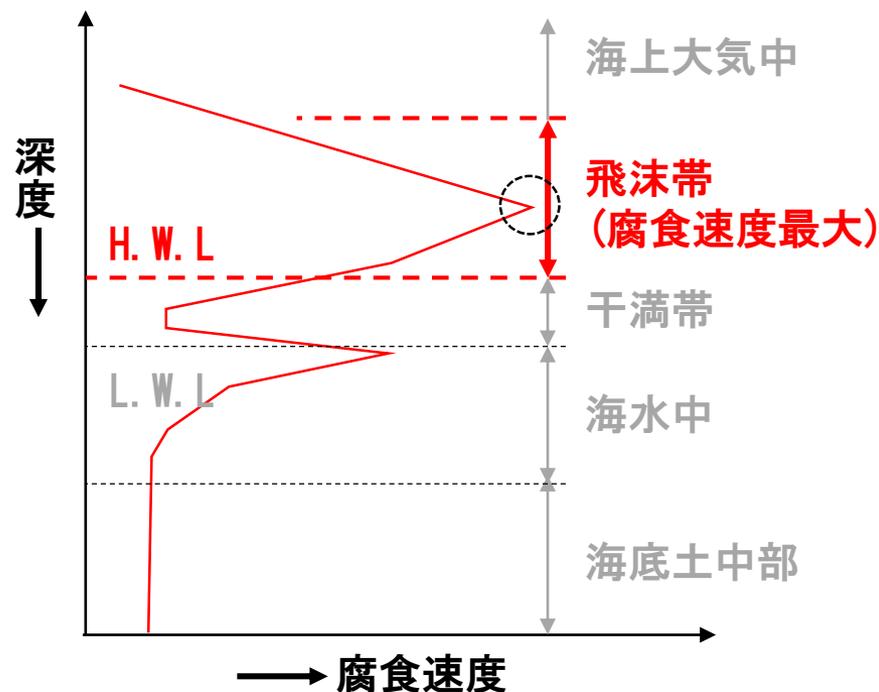
■ 維持管理上の留意事項

・ 鋼管場所打ち杭基礎での腐食

➢ P2杭基礎は杭体が飛沫帯に位置するため厳しい腐食環境



鋼管杭（被覆防食工施工済）



鋼管杭の腐食速度分布図

■ 維持管理上の留意事項

- ・ 海岸付近

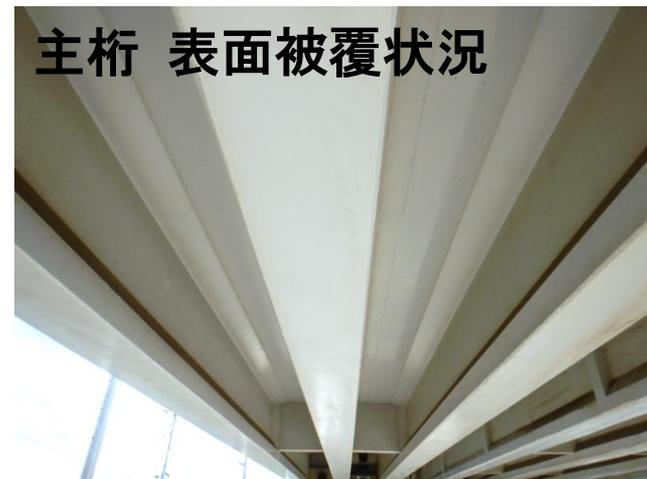
- 塩害による損傷

- ・ 補修、補強材

- 遮塩を目的とした表面被覆材の経年劣化



側面写真



桁下写真

■点検計画

- ・ 山口県橋梁点検要領（案）に基づき、5年に1回の頻度で実施
- ※地震など緊急時については適宜実施
- ・ 橋の状態を定期的に把握するため、デジタル技術を活用し、データを蓄積

■調査計画

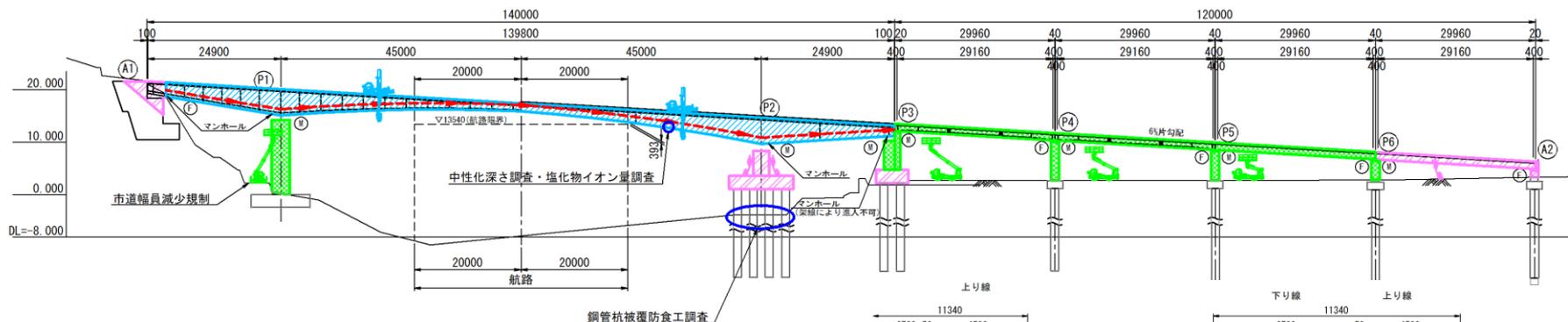
- ・ コンクリート部材について15年に1回の頻度で中性化深さおよび塩化物イオン量を調査
- ・ P2杭基礎（水中部）について10年に1回の頻度で防食工の調査

■点検・調査方法

至 青海島側
(起点側)

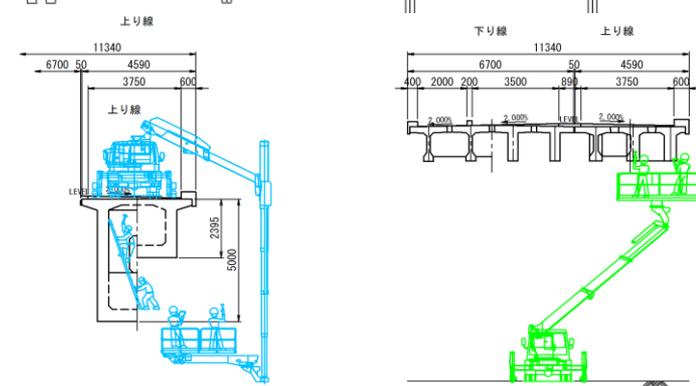
側面図 S=1:500

至 本土側
(終点側)



凡例

- : 高所作業車を使用し点検する範囲
- : 橋梁点検車 (BT-110相当) を使用し点検する範囲
- : 地上・梯子により点検する範囲
- : 徒歩点検ルート
- : 詳細調査箇所



●ドローンによる
全体の点検

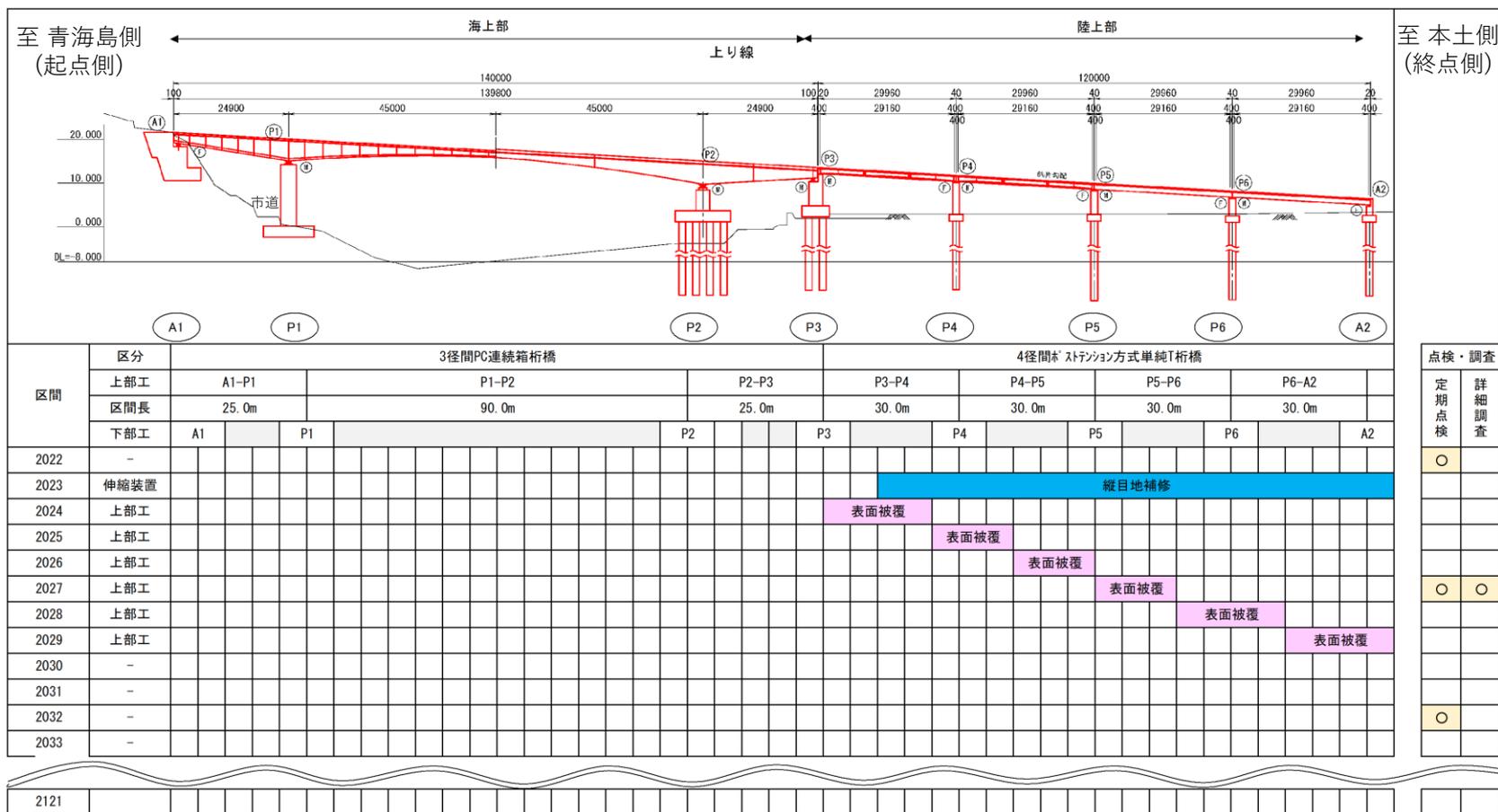


●左記を基本とするが、下記箇所は
直接、視認等により点検を実施する

- 容易に視認できる箇所
- 橋座部
- ドローンにより視認できない箇所および損傷
- 損傷の程度等により必要と判断される箇所

■補修方針

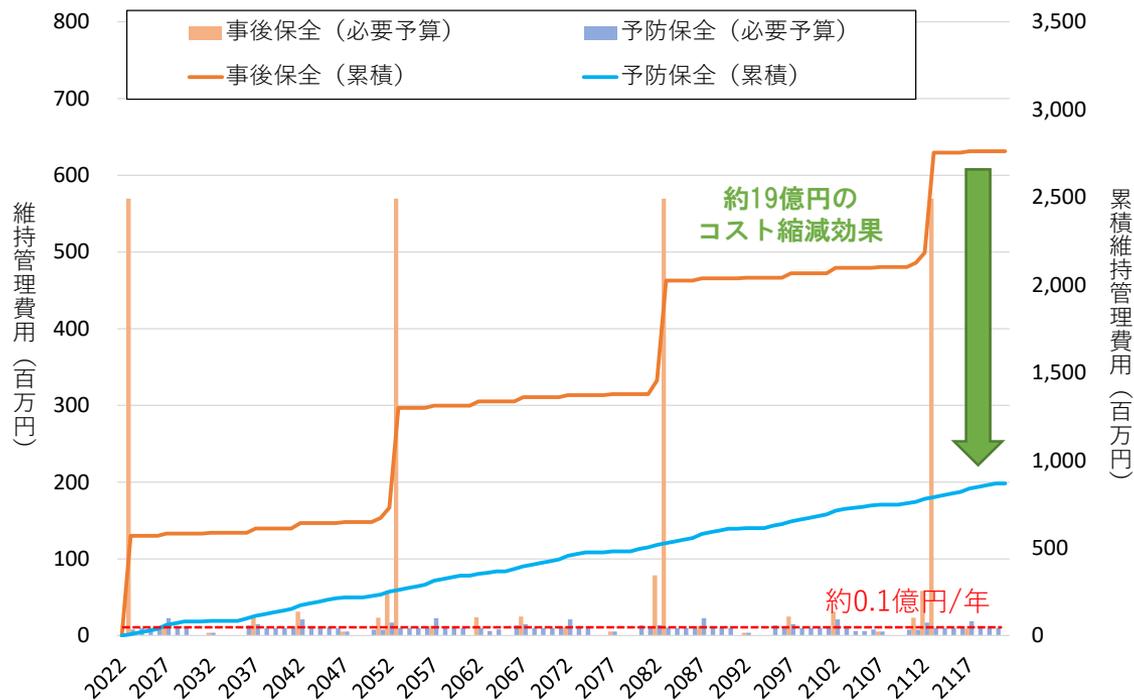
- ・ 2023年までに補修を完了
- ・ 2024年から予防保全型の維持管理を実施



※点検・調査結果や予算状況により変更の可能性がある

本計画により期待される効果 青海大橋（上り線）

■ 予算



- 予算の平準化
- 100年間で維持管理費約19億円の縮減効果

■ 安全

- 架橋環境（塩害地域）、構造特性等に応じた確実な点検、調査

- 異状箇所の早期発見